



事務局だより

若鮎おどる季節となりました。日頃より日本水環境学会をご支援いただきありがとうございます。第36回通常総会は2016年6月8日に開催され、平成27年度決算が承認されました。消費税増税に伴う会費の改定については、今後の政府判断や財政状況の変化を見守りながら再検討する必要が生じているとの意見が出され、第2号議案は反対多数で否決され、今後も継続して検討することになりました。

今年から、通常総会の開催に合わせて、学会トピックスをまとめた事務局だよりを、名誉会員と顧問の皆様にお送りすることになりました。会長の発案です。そこで、2015年9月から事務局長を拝命いたしました小川かほるから、お便りをお送り申し上げます。

1. 平成27年度決算について

正味財産合計の減少額（いわゆる赤字）は1,639千円でした。平成26年度の5,762千円、平成25年度の4,850千円に比較すると大幅に改善されてきました。依然として赤字ではありますが、退職金支払等の一時的な支出を含めた上での結果であることから、予算上の健全経営が見えてきたと思います。これは次のような業務改革と事務局人件費の経費削減など、財務改善に取り組んできた成果です。

（1）機関誌の編集体制の見直し

2016年1月号から、機関誌が爽やかな水色の表紙に刷新されました。編集委員会の御尽力で、編集体制を見直して、新たな委託先である株式会社遊文舎に業務がスムーズに移管されました。この結果、機関誌発行費用が3,574千円削減されました。

（2）年会における事業収益改善の積極展開

年会については、平成26年度の石川年会に続き、平成27年度徳島年会も成功裏に終えることができました。年会開催における収益改善は、地元自治体からの協賛をいただくとともに、地元企業を含め企業展示の新規出展による収益増、年会講演要旨集ダウンロード化による経費削減の成果です。

目次

平成27年度決算について	1
平成27年度の事業について	2
(1)共創力の強化・充実	2
(2)国際活動の推進	2
(3)会員の増強とその活用	3
平成28年度事業について	3
事務局スタッフ紹介	4

会員数の減少に伴い、学会財政の基盤となる受取会費収入の減少が今後も継続すると予想されます。このような中で持続的な学会運営を実現するため、当学会では人件費の削減、年会講演要旨集ダウンロード化による印刷製本費の削減、機関誌制作費の削減などの改革を行ってきました。その結果、学会財政の黒字化まであと一歩のところまで来ております。

各事業を適正な収支バランスのもとで実施するよう努めることにより、今後とも財政改善を進めてまいりますので、引き続きご指導のほどお願い申し上げます。

財務担当理事 藤原拓



大韓環境工学会との交流

交流協定に基づき、大韓環境工学会員を10名まで年会に招待しております。徳島年会では、前Seo会長、新Han会長などのランチミーティングにて、今後の連携強化について協議を行いました。



IWA-WWC2018

昨年9月に設置されました組織委員会の下で、3つの調整部会（企画、広報、協賛推進）にて、魅力的な会議開催を目指して検討が進められています。大会会長に古米会長が、開催国委員会（HCC）の委員長に古米会長、副委員長に松井副会長がそれぞれ選任され、IWA-WWC2018の開催に本学会が重要な役割を担っています。

2. 平成27年度の事業について

第50回年会を2016年3月16日～18日（19日現地見学会）に徳島市で開催し、1314人の参加がありました。四国での初開催でしたが、上月康則年会実行委員長、山本裕史幹事長をはじめとする中国・四国支部のご尽力により大成功でした。第18回シンポジウムは2015年9月14日～15日に信州大学工学部キャンパス（長野市）で開催し、394人の参加がありました。WET2015は2015年8月5日～6日に日本大学駿河台キャンパスで開催し、100件以上の発表が行われました。

以下に、今期の活動方針【①共創力の強化・充実、②国際活動の推進、③会員の増強とその活用】に沿って事業報告をします。

（1）共創力の強化・充実

多様な分野の会員を有する学会の特徴を生かすべく、新たな価値を共に創造するために、産官学担当の理事に加え、共創企画担当の理事が新たに設けられました。初又繁理事と高梨啓和理事を中心に団体会員へのサービス充実や地方支部でのイベント開催などを含め、各委員会等での協働が進められています。女子学生会員の活躍が目立つようになりましたが、学生会員に占める女子学生の割合は約3割、個人会員に占める女性の割合は約1割です。男女共同参画を推進するために、池本良子理事が担当として任命されました。女子学生が将来の正会員になっていただけるよう、女子学生のエンパワメントを目指して、第50回徳島年会時に

ランチョンセミナー（第48回仙台年会から支部共同主催で開催）を初めて本部主催で開催し大変好評でした。

（2）国際活動の推進

2018年9月にIWAの世界会議が東京で開催されます（会場：東京ビッグサイト）。東京都水道局、東京都下水道局、日本水道協会、日本下水道協会、日本水環境学会の5団体を中心に組織委員会を設置して、開催に向けて準備を始めています。迫田前会長の時に導入されたアジア連携担当の福士謙介理事が今期も任命され、国際連携会員の増強と連携強化を推進しています。第24回日韓水環境シンポジウムをソウル市で2015年10月18日～19日（20日は現地見学会）に開催しました。第25回は2016年10月に京都で開催します。

(3) 会員の増強とその活用

個人および団体の会員数の変遷を下に示します。減少傾向は残念ながら止まっていません。会員サービスの充実とともに、企業や地方自治体の会員の皆様への励みになるよう、平成26年度から「技術奨励賞」の授賞を始めました。水環境に関する調査研究または水環境技術が独創的であり、将来を期待される個人または団体に贈呈するものです。また、MS分析技術基礎講習会を今年度は関西支部、九州沖縄支部と共催して地方でも開催するなど、若手会員の入会の機会作りを継続しています。



3. 平成28年度の事業について

(1) 熊本年会の開催について

2016年4月14日夜以降、震度7や6強を観測する地震を含め、熊本県と大分県で相次いで地震が発生し（平成28年熊本地震）、多大な被害がでました。地震発生当初は、熊本大学での年会開催が危ぶまれました。しかし、年会実行委員長である川越保徳教授、同幹事長である濱武英准教授をはじめとする九州沖縄支部の皆様からの強い開催意志表明があり、地元自治体の協力支援も得られることから、2017年3月15～17日に熊本での開催を再確認しました。地震からの復旧・復興に関連した水環境保全の現場を知る貴重な機会になると思います。

復興のささやかな一助になればと思います。多くの皆様がぜひ熊本年会にご参集くださいますよう、お願いします。懇親会はホテルニューオータニ熊本で開催予定です。なお、熊本市内のホテルは復興需要のために混雑が予想されます。宿の予約をお早めをお願いします。



水前寺公園

MS分析技術基礎講習会
～今さら聞けない基礎知識講習会～SPE編 in関西
2016年6月29日(水)
大阪工業大学うめきたナレッジセンター

MS分析技術基礎講習会
～今さら聞けない基礎知識講習会～SPE編 in九州
2016年7月22日(金)
九州工業大学戸畑キャンパス・百周年中村記念館多目的ホール

第25回市民セミナー
温暖化、水とくらしはどのような？どうする？
(Ⅲ)～生活目線での適応策～
2016年8月5日(金)地球環境カレッジホール及びいであ(株)大阪支社ホール

Water and Environment Technology Conference
2016(WET2016)
2016年8月27日(土)～28日(日)

中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区)

第19回シンポジウム
2016年9月13日(火)～14日(水)

秋田県立大学秋田キャンパス(秋田県秋田市)

第62回日本水環境学会セミナー
生物応答を用いた排水管理手法(日本版WET)の最新動向と今後の展望
2017年1月30日(月)
自動車会館

第51回日本水環境学会年会
2017年3月15日(水)～17日(金)
熊本大学黒髪キャンパス(熊本県熊本市)

熊本年会実行委員長からのメッセージ

今般の地震では多くの方々から心強いご支援を賜りました。深く感謝申し上げます。被災地での開催となりますが、地元は大歓迎の意で一杯です。是非この機会に、”水の国”熊本の復興の”今”を体感され、水環境研究の発展にも繋げていただければと存じます。実行委員一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

熊本大学 川越保徳

秋田シンポジウム実行委員長からのメッセージ

第19回シンポジウムを秋田市で開催いたします。秋田での本会のイベント開催は初めてと伺っています。多くの会員の皆様にご来秋いただき、白熱した議論を展開するとともに、交流を深めていただくことを期待しています。実行委員一同、皆様のお越しをお待ちしております。

秋田県立大学 宮田直幸

(2) 秋田シンポジウムの開催について

2016年9月13・14日に秋田県立大学で開催されるシンポジウムにおいては、17の研究委員会及び本部による企画セッションのほか、博士研究奨励賞セッション（当日の発表・審査で受賞者決定）、年間優秀論文賞の受賞者講演、企業展示とランチョンセミナー、特別講演会「震災・防災と水環境」（無料）、秋田ビューホテルでの懇親会等が行なわれます。秋田駅・追分駅から秋田県立大学へのバス臨時便も計画しています。翌15日には秋田の水環境を訪ねる見学会も開催されます。より多くの皆様のご参加をお願いします。

4. 事務局スタッフ紹介

事務局業務の見直しを通じて残業時間の増加などの問題があることかわかり、業務内容の再整理を行うことになりました。また、ハローワークや朝日新聞に求人募集を出し、多数の応募者の中から新たに1名を採用しました。これで事務局長1人、正規職員2人、パートタイム職員4人の7人体制となりました。学会活動を支える地道な仕事を皆で支え合う明るい職場にしたいと考えています。お近くにおいでの際は、どうぞ立ち寄り下さい。



田沢湖



秋田県立大学

公益社団法人 日本水環境学会

〒135-0006 東京都江東区常盤2-9-7 グリーンプラザ深川常盤201

Tel. (03) 3632-5351 Fax. (03) 3632-5352

Home Page: <https://www.jswe.or.jp> E-mail: info@jswe.or.jp